

(仮称)海浜エリア活性化ビジョン

中間案

**2023年5月
仙台市**

目 次

1. はじめに.....	- 1 -
(1) ビジョン策定の経緯と趣旨.....	- 1 -
(2) 海浜エリアの範囲	- 1 -
2. 海浜エリアの姿.....	- 2 -
(1) 海浜エリアの現状	- 2 -
(2) 貞山運河の賑わい創出に向けた動き	- 6 -
3. これからの海浜エリアを考えるために.....	- 7 -
(1) ヒアリングの実施	- 7 -
(2) 人々の声、そして想い.....	- 8 -
(3) 海浜エリアの将来像につながる要素.....	- 10 -
4. 海浜エリアのコンセプト及び将来像イメージ	- 11 -
(1) 海浜エリアのコンセプト	- 11 -
(2) 将来像のイメージ	- 12 -
5. 本市の当面の取り組みの方向性.....	- 14 -
(1) 集いの空間づくり	- 14 -
(2) 親水空間としての貞山運河利活用.....	- 14 -
(3) 様々な「つながり」を大きな「つながり」に	- 15 -
6. 本市の計画・施策への反映.....	- 16 -
参考資料	- 17 -
1. 本市関連計画等における海浜エリアの位置づけ.....	- 17 -
2. ヒアリング調査.....	- 19 -
(1) ヒアリング調査の概要	- 19 -
(2) ヒアリング調査の結果.....	- 20 -

1. はじめに

(1) ビジョン策定の経緯と趣旨

本市東部沿岸地域は、東日本大震災の津波により甚大な被害を受けました。本市では、復旧・復興に取り組むとともに、防災集団移転跡地の利活用を推進し、民間の自由な発想を活かした新たな魅力の創出等に取り組んできたところです。

現在、地域住民・団体、民間事業者、行政機関等が、この地域の活性化に向けた活動を展開しています。東部沿岸地域の魅力の一層の向上に向けては、目指す将来像を共有し、相互に連携・協力して取り組んでいくことが重要です。

本ビジョンは、東部沿岸地域の将来像を示し、多様な主体がこれを共有しながら各々の活動をつなぎ、発展させることによって、この地域の魅力を相乗的に高め、広く発信していくことを目的として策定するものです。

なお、本ビジョンは、概ね現行の仙台市基本計画（2021-2030）の終期となる2030年頃を見据えたものとします。

(2) 海浜エリアの範囲

今後更なる取り組みの発展や新たな利活用が期待されるエリアとして、概ね仙台東部道路から東側、宮城野区の仙台塩釜港から、若林区藤塚及び名取市閑上を含む南北約12kmの範囲を「海浜エリア」とします。

2. 海浜エリアの姿

(1) 海浜エリアの現状

豊かな自然と人々に育まれる緑

多様な生き物が生育・生息する海岸線、その海岸線に沿って流れる歴史的遺産貞山運河、自然とのふれあいやスポーツを楽しめる海岸公園、仙台の食を支える田園地帯等、海浜エリアには人々が思い思いに関わりを持てる自然が広がっています。

環境保全・清掃活動の取り組みも盛んに行われており、津波により大きく姿を変えてしまった海岸防災林では市民協働による植樹・育樹活動や定期的なビーチクリーン活動、自然環境を生かしたフットパスの取り組みが展開されています。

震災の記憶と地域の想いをつなぐ活動

震災による被害を大きく受けた海浜エリアには、被災された方々へ想いを寄せるとともに、震災の記憶と経験、この地域で続いてきた文化や人々の営みを未来へとつなぐ拠点として、3.11 メモリアル交流館や震災遺構仙台市立荒浜小学校、なかの伝承の丘等が整備されました。

また、この地に関わる様々な方々の手によって慰霊碑等の整備や管理、慰霊祭や鎮魂イベントが開催され、震災への意識と備え、土地の歴史や人々の想いを絶やすことなく語り継ぐ取り組みが進められています。

復興のその先へ向けた取り組み

震災後、海浜エリアでは体験型観光農園や温泉複合施設等の商業施設、市民農園や地域交流施設等による新たな賑わいを創出する取り組みが進められています。2019年には施設管理者や事業者等による仙台東部エリア交流施設連絡協議会（現：仙台海手ネットワーク）が発足し、エリア内の連携を促す取り組みも進んできました。

海浜エリアへの公共交通アクセス

本市中心部から東へ約 10km に位置する海浜エリアへは JR 仙石線や市営地下鉄東西線が便利です。JR 中野栄駅からは仙台港周辺地区に向けて、地下鉄荒井駅からは南蒲生・新浜・荒浜地区に向けてそれぞれ路線バスが運行するほか、いくつかの商業施設では駅と施設を結ぶ無料シャトルバスも運行されています。また、藤塚地区・名取市閑上地区での商業施設の開業に伴い、JR 東北本線長町駅・名取駅から同地区に向けたバスが 2022 年から運行を開始しました。

【8 地区と主な施設・資源等】



【8 地区の現状（仙台港周辺地区～新浜地区）】

仙台港周辺地区

- ▶ 仙台港背後地土地区画整理事業により三井アウトレットパーク仙台港等の大型商業施設の立地が進んだほか、中野中央公園や仙台うみの杜水族館等の交流施設の整備も進められ、休日には多くの人々が訪れる観光拠点となっている。
- ▶ 仙台港周辺地区は 2018 年度に、「みなと」を核とした地域振興の取り組みが継続的に行われる施設として、国土交通省より「みなとオアシス」に認定、登録された。
- ▶ 地区内には物流・産業拠点多く、宿泊施設もある。



三井アウトレットパーク仙台港



仙台うみの杜水族館

中野・蒲生地区

- ▶ 国指定仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区に指定されている蒲生干潟や、日本一低い山と言われている日和山があり、自然豊かな地区である。
- ▶ 貞山堀（御舟入堀）にまつわる遺跡や神社等、歴史的資源が点在している。
- ▶ 震災で犠牲になられた方々の追悼・鎮魂と地域の歴史を後世に伝えるため、閉校した中野小学校の跡地に設置された地域モニュメントなかの伝承の丘は、地域の人々の心の拠りどころとして大切にされている。
- ▶ 仙台塩釜港はサーフィンスポットとして全国的に有名で、日本サーフィン連盟公認のサーフィン大会仙台新港マスターズが向洋海浜公園を会場に隔年で開催されている。
- ▶ 蒲生北部被災市街地復興土地区画整理事業により基盤整備と土地の集約化が図られ、地区内には運輸業や製造業等多くの企業立地が進んでいる。



蒲生干潟



なかの伝承の丘

南蒲生地区

- ▶ 海岸公園復興基本計画では野球、テニスや軽スポーツを楽しむゾーンと位置付けられており、各種スポーツ施設が整備されている。
- ▶ 地区内の海岸公園には野球場が 6 面、テニスコートが 10 面整備され、仙台市内でも屈指の規模を有するスポーツ公園となっている。
- ▶ 跡地活用事業により 2020 年にドッグランが整備され、愛犬家が集うことで新たな賑わいが生まれている。



海岸公園野球場



ガモウパーク

新浜地区

- ▶ 地元町内会が主体となり、地域の交流の場としてグラウンド・ゴルフ場や体験農園等を整備している。
- ▶ 豊かな自然環境を活かし、動植物の生態観察会が開催されているほか、生物がふ化できるようなピオトープの維持や保護活動が行われている。
- ▶ 貞山運河で舟遊びや周辺の散策を行う新浜フットパス等の地域イベントが定期的開催されている。
- ▶ 「優れたアーティストのユニークな視点と仕事」と、地域の「人材、資源、課題」をつなぐアートプロジェクトの一環である仙台インプログレスにより、貞山運河沿いに「みんなの木道」や「新浜タワー」が設置されている。



新浜フットパス



新浜タワー

【8 地区の現状（荒浜地区～名取市閑上地区）】

荒浜地区

- 海岸公園復興基本計画では水辺のレクリエーションやパークゴルフ等多様なレクリエーションを楽しむゾーンと位置付けられており、パークゴルフ場等が整備されている。
- 震災の教訓と地域の記憶を後世に伝える震災遺構仙台市立荒浜小学校や震災遺構仙台市荒浜地区住宅基礎、地域モニュメント等が整備されている。
- 毎年 8 月に荒浜地区の貞山運河で荒浜灯籠流しが行われており、2019 年からは震災の鎮魂の願いを込めた花火が打ち上げられている。
- 跡地利活用事業により 2021 年に果物狩りを楽しめる観光農園が整備され、休日は多くの家族連れで賑わっている。
- 震災前には市内で唯一の海水浴場があったが、被災後は再開されていない。2022 年からは実行委員会による、親水イベントが開催されている。



震災遺構荒浜小学校



荒浜灯籠流し

井土地区

- 海岸公園復興基本計画ではプレーパーク活動、乗馬、デイキャンプ等の体験活動を行うゾーンと位置付けられており、馬術場や冒険広場等が整備されている。
- 地域住民や元住民が中心となった清掃活動や自然観察会等のイベントが開催されている。
- 井土ねぎに代表される農業が盛んな地域であり、旬の農作物の販売や、地域活動団体との連携による出店等が行われた井土プチマルシェが 2022 年 11 月に初めて開催され、多くの人々で賑わった。



海岸公園冒険広場



海岸公園馬術場

藤塚地区

- 国指定仙台海浜鳥獣保護区井土浦特別保護地区に指定されている井土浦があり、貞山運河周辺の環境とも相俟って良好な自然環境が広がっている。
- 海岸公園復興基本計画では湿地や干潟等自然環境の再生と、自然学習について学ぶゾーンと位置付けられている。
- 平安時代から続く由緒ある五柱神社が震災による被害から再建され、元地域住民による管理が行われている。
- 防災集団移転跡地の公共ゾーンを海岸公園区域に編入する計画があり、国の制度を活用した河川と公園の一体的な空間整備の検討が進められている。
- 跡地利活用事業により、2022 年に複合施設（温泉、レストラン、カフェ、マルシェ等）が整備され、多くの方が訪れ賑わっている。



五柱神社



アクアイグニス仙台

名取市閑上地区

- 国土交通省が推進するかわまちづくり支援制度の活用等により、地域の賑わいが新たに創出され、震災からの復興を遂げている。2021 年度には、かわまちづくりの先進的な取組としてかわまち大賞を受賞した。
- 地元の水産加工業者が中心となって日曜日・祝日に朝市が開催されており、多くの買い物客で賑わっている。
- 名取市が運営主体となり、広浦・閑上港コース、貞山運河コース、名取川遊覧コース、の 3 つのコースを周遊するゆりあげ周遊船が運航されている。
- 2022 年 8 月、震災前の 2010 年以來 12 年ぶりに、閑上地区を会場としてなとり夏まつりが開催され、打上花火が閑上の水辺を彩った。



かわまちてらす閑上



ゆりあげ周遊船

(2) 貞山運河の賑わい創出に向けた動き

エリアを南北に貫く貞山運河は、歴史的な背景と美しい景観、豊かな自然環境を有した重要な資源であり、エリアをつなぐシンボルの一つです。震災により甚大な被害を受けましたが、復旧・復興が進められ、現在では様々な主体による賑わい創出に向けた取り組みが始まっています。

市民団体・民間団体の取り組み

- ・貞山運河倶楽部（2019年6月1日設立）
貞山運河フォーラムの開催や貞山運河小屋めぐり、貞山運河の曳舟の再現等のイベントを実施している。
- ・一般社団法人貞山運河ネット（2022年4月6日設立）
貞山運河に関する冊子の作成・配布や貞山運河サミットの開催、新堀の運航調査等を実施している。



行政の取り組み

- ・藤塚地区にぎわいづくり検討会（仙台市）
本市では藤塚地区の海岸公園再整備に向け、2022年に藤塚地区にぎわいづくり検討会を開催し、「かわまちづくり支援制度」を活用した河川と公園の一体的な空間をつくることで、藤塚地区の賑わい創出を目指すこととしています。検討会の中では、親水護岸やオープンカフェ、自然観察拠点の整備等のアイデアが提案されています。



- ・貞山運河舟運事業（名取市）
名取市では2018年から名取川や貞山運河、広浦等の豊かな水資源を活用した舟運事業により、地域交流及び地域経済の活性化や観光事業の促進を図っています。2022年からは、①貞山運河コース、②名取川遊覧コース、③広浦・閑上港コースの3コースを運行しており、水辺に賑わいをもたらしています。



3. これからの海浜エリアを考えるために

(1) ヒアリングの実施

海浜エリアで様々な活動を展開する次の46団体を対象にエリアの魅力、課題、将来像等についてヒアリング調査を行いました。

<地域団体等>

・井土町内会	・新浜町内会
・海辺の図書館	・種次町内会
・神屋敷町内会	・なかの伝承の丘保存会
・旧藤塚町内会	・二木町内会
・笹屋敷町内会	・南蒲生町内会
・三本塚町内会	・元荒浜住民の方々

<震災メモリアル関連>

・3.11 オモイデアーカイブ	・せんだい3.11メモリアル交流館
・HOPE FOR project/荒浜灯籠流し実行委員会	

<スポーツ・レクリエーション関連>

・海岸公園センターハウス	・今野不動産株式会社
・海岸公園馬術場	・仙台新港マスターズ実行委員会
・海岸公園冒険広場	・東北黒沢建設工業株式会社
・ガモウパーク	・名取市サイクルスポーツセンター
・木村造機	・名取トレイルセンター

<市民農園・農業関連>

・株式会社 MITU	・せんだい農業園芸センター
・一般社団法人 ReRoots	・平松農園
・荒浜のめぐみキッチン	・ファーム・SURF-SIDE 荒浜
・荒浜ワイワイガーデン	・株式会社深沼アグリサービス
・遠藤環境農園	・有限会社ミドリ企画
・カントリーパーク新浜	

<商業・観光関連>

・JRフルーツパーク仙台あらはま	・名取市商工観光課（貞山運河舟運事業）
・アクアイグニス仙台	・三井アウトレットパーク仙台港
・キリンビール仙台工場	・ゆりあげ港朝市・メイプル館
・仙台うみの杜水族館	

<まちづくり・その他市民活動団体>

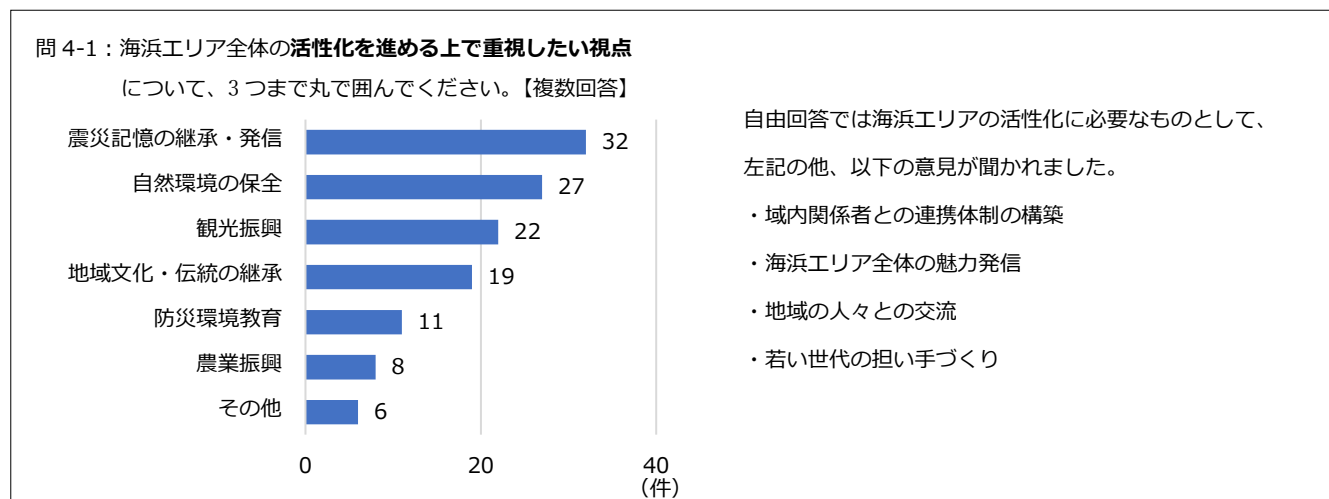
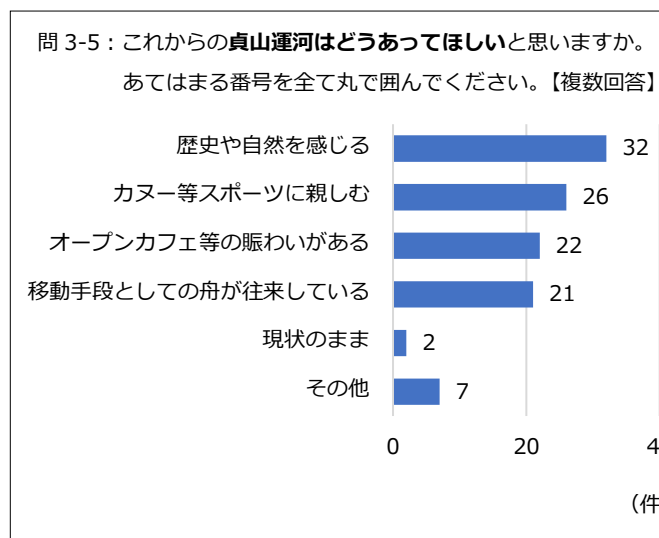
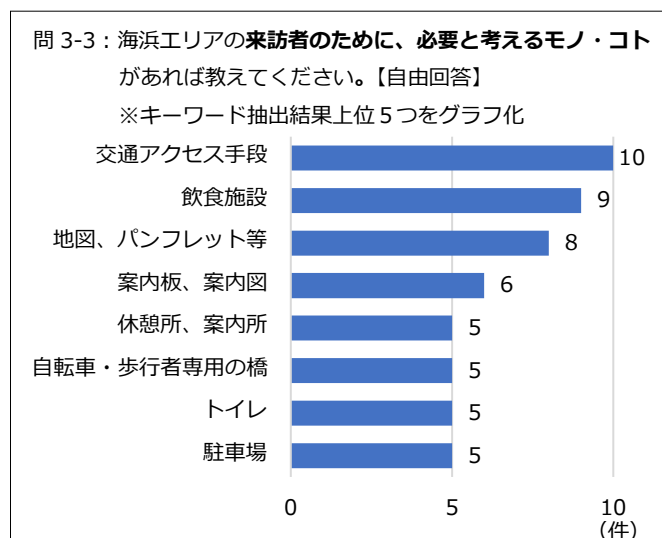
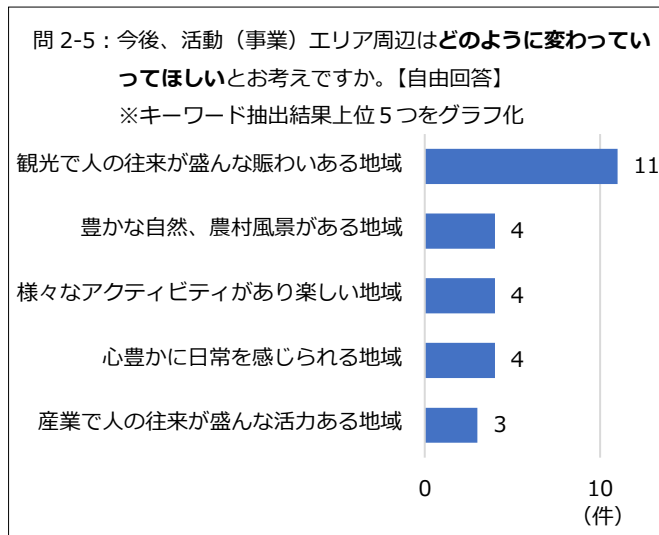
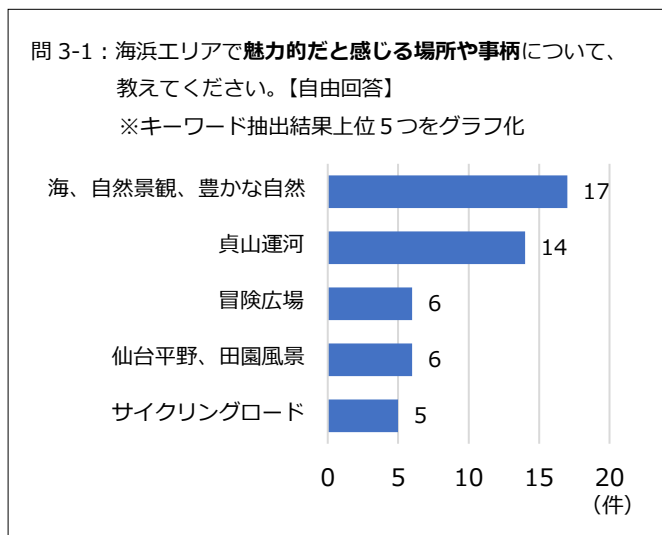
・一般社団法人荒井タウンマネジメント (仙台海手ネットワーク事務局)	・貞山運河倶楽部
	・一般社団法人貞山運河ネット

(五十音順、敬称略)

(2) 人々の声、そして想い

海浜エリアの魅力や貞山運河のこれからの姿、エリアの活性化を進める上で重視したい視点等、ヒアリング調査の主な結果は次のとおりです。

(全体の調査結果は参考資料「2. ヒアリング調査」を参照)



ヒアリング調査で聞かれたご意見



「青い海、広い空」 「農家のプロ意識」

魅力

「山も海も市街地も田園もあるのは珍しく魅力的」



「歩くことで見える景色」 「住民とその暮らし方」 「地域の人・文化・暮らし」

「灯籠流し」 「井土浦」 「海から昇る朝日」 「習慣、食べ物、お祭り、言葉」 「跡地活用事業」

「釣りや SUP の場として 貞山運河を活用できる」 「津波で建物が流されて 空が広がったこと」 「藤塚の避難の丘 からの眺望」 「植樹された松が 育つ様子」 「水面に映る貞山運河の 風景が素晴らしい」

「蒲生干潟」 「歴史的資源としての貞山運河」 「手付かずの自然」 「集客施設」 「寒い日の気嵐」 「震災から 10 年以上も 活動を続ける人々」



「地区ごとに特徴があり、季節によって違う 風景が見られるサイクリングロード」 「雪の積もった砂浜」



「地域全体の課題共有」 「域内連携の促進」

求めるもの

「災害時の逃げ道が 少なく分かりにくい」 「若者へのアプローチ」 「認知度向上」

「車以外のアクセス手段がほしい」 「避難ルートを書いた マップがほしい」 「ランドマークタワー」

「キッチンカーがあつたらいいな」 「海辺の魅力を発信してほしい」 「トイレや食事処が必要。 コンビニもないのは厳しい」

「エリアを回遊できる仕組みが必要」 「草刈り」 「活動資金の調達」 「渋滞緩和」 「大きな案内看板や 標識の設置」

「持ち歩き出来る地図が必要」 「事業者と元住民を含めた 地域をつなぐ取り組みが必要」 「レンタサイクル」

「人材育成」



思い描く姿

「大規模な集客施設や大きなイベントを開催して、たくさんの人に来てほしい」 「悲しい思い出もあるが、 楽しい思い出を作る場所に してほしい」 「海辺を実感できる食が 楽しめる場所」 「若い人がもっと海に 親しめるような場所になつてほしい」

「海辺を実感できる食が 楽しめる場所」 「活力ある地域」 「海水浴場が復活して ほしい」

「明るい地域への イメージ転換」 「人の想いや営みが感じられる 場所にしていくことが必要」 「昔の町並みに もどつてほしい」 「緩やかに時間をかけてゆっくりと 日常が生まれる場所になつてほしい」

「交流人口が増加 していく場所」 「エリアの住民の想いが 形になるように 変わってほしい」 「地域の文化や伝統が 継承される元気な地域」 「官民が知恵をしまり 活動しやすい地域」

「豊かな自然を保全して、 都会と農村が共存する現状を 残してほしい」 「地域の人々が住み続けられる場所」 「日常の中でふらっと 海を見るために 訪れるような場所」 「単なる事業活動が復興ではなく、 震災があつたけれども、昔は人が 暮らしていたところを大事に しながら事業を行うことが復興の姿」

「賑わいよりもこのまま静かな地域 であつてほしい」 「心豊かに住める地域」



(3) 海浜エリアの将来像につながる要素

エリアの魅力

海浜エリアには海岸線の干潟や湿地、貞山運河、みのり豊かな田園、また季節を問わず人々が集まる商業施設等多様な場があり、サーフィンや釣り等の水辺のアクティビティはもちろん、乗馬や野球、ショッピングや観光等、幅広い世代が楽しむことができる資源が揃っています。それら多様な楽しみをつなぎ合わせることで、四季を通して楽しく遊べるエリアの姿が見えてきます。

一方で、ヒアリング調査では「心豊かに日常を感じられる地域になってほしい」「このまま静かな地域であってほしい」という意見も聞かれました。賑やかなだけでなく、広い空と海に囲まれてゆったりとくつろぎリフレッシュできる、穏やかな日常の中で憩いの時間を過ごせる海辺の空間も大きな魅力と言えます。

また、「震災の記憶の継承・発信」「自然環境の保全」「地域文化・伝統の継承」等も重視されており、被災した方々に想いを寄せるとともに、震災の記憶や災害文化、地域の歴史、豊かな自然環境を後世に伝えていくため、多様な学びのフィールドとしての活用も期待されています。

エリアの課題

海浜エリアでは様々な施設の整備が進んでいますが、エリア内を南北につなぐ交通手段は自家用車等に限られるため、複数の施設や地区をつなぐ仕組みとして「交通アクセス手段」「地図、パンフレット等」「案内板、案内図」等、エリア内を巡りやすくするための取り組みが求められています。加えて、「飲食施設、休憩所」等滞在環境の充実も望まれています。「コンビニ、キッチンカー」等を求める声もありますが、仙台の食卓を支えてきた農産品や伝統的な食文化等の要素を生かした滞在環境の提供によって、訪問者に食を満喫してもらうことも考えられます。

また、「域内連携体制の構築」「エリアの魅力発信」を重視する声も多く聞かれました。事業者や市民の様々な活動の繋がりによる相乗効果によって新たな魅力を生み、そして、それら様々な魅力にあふれる姿を広く発信することで、より多くの人々による集いの機会をもたらすことが期待されています。

4. 海浜エリアのコンセプト及び将来像イメージ

(1) 海浜エリアのコンセプト

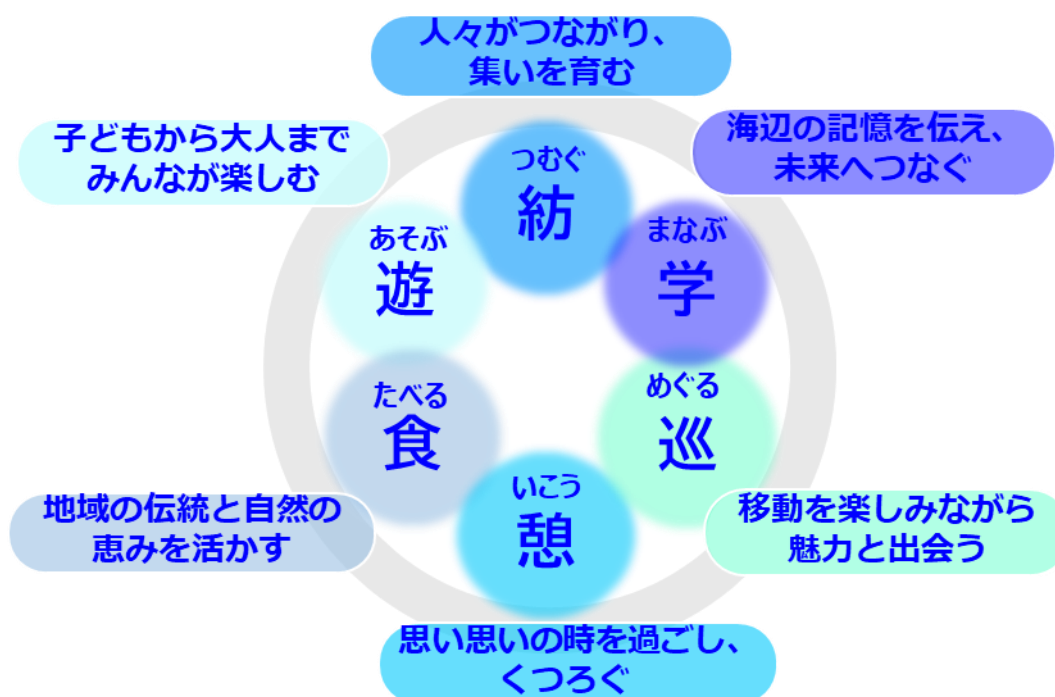
前項に掲げるような要素を踏まえ、関係する様々な主体と共有する海浜エリアのコンセプトを『つながりから生まれる、集いの海辺』とし、多様な魅力やエリアに関わる人々の活動、想いをつなぎ、それらを発展させていくことでエリア全体の魅力を向上させ、これまで以上にたくさんの人々が集う場所となることを目指していきます。

コンセプトを踏まえ、6つの視点から描く将来像を「遊：子どもから大人までみんなが楽しむ」「食：地域の伝統と自然の恵みを活かす」「憩：思い思いの時間を過ごし、くつろぐ」「巡：移動を楽しみながら魅力と出会う」「学：海辺の記憶を伝え、未来へつなぐ」「紡：人々がつながり、集いを育む」とします。

つながりから生まれる、集いの海辺

多様な魅力・特徴をつなげ、これまで以上に人々が集う海浜エリアへ

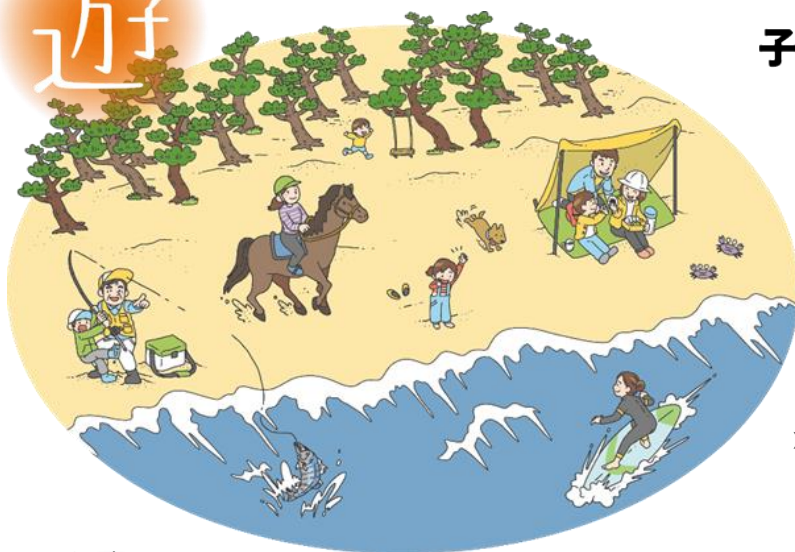
6つの視点から描く将来像



(2) 将来像のイメージ

あそぶ

遊



子どもから大人までみんなが楽しむ

海浜エリアには多様な遊びの可能性が広がっています。世代を超えた人々が集い、潮風を感じながら、運河や海でのSUPやカヌー、ビーチテニスなど、思いっきり身体を動かして楽しい時間を過ごす、そんな空間へ。

- 砂浜や海、貞山運河、海岸公園などでスポーツやレジャーを楽しむ人々

たべる

食



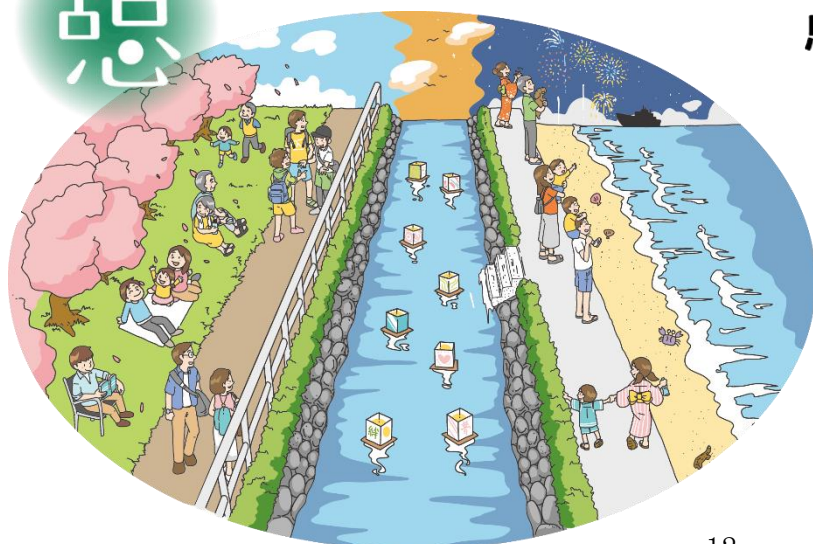
地域の伝統と自然の恵みを活かす

海浜エリアには体験型観光農園や市民農園、複合商業施設が開業し、新たな食の楽しみが生まれています。生産者と消費者、様々な食材、それらをつなぎ豊かな土地の恵みを堪能する、そんな空間へ。

- 農業や漁業等の生産者、果物狩りやバーベキューなどを楽しむ人々

いこう

憩



思い思いの時間を過ごし、くつろぐ

広大な海と空に囲まれ、思い思いの時間を過ごすことができる海浜エリア。アートやスポーツ、ショッピングを楽しむ。地域の歴史に触れる。朝日や星空、夜景を眺める。静かに思い偲ぶ。四季を通じて心の安らぎを得られる、そんな空間へ。

- 花火や灯籠流し、貞山運河沿いでお花見を楽しむ人々

つむぐ
紡



人々がつながり、集いを育む

エリアに点在する資源の個性を活かし、共有と連携を進め、魅力を発信し、新たな推進力を生み出す、そんな空間へ。

- 海岸防災林の植樹・育樹や海岸清掃、自然観察を行う人々

まなぶ
学

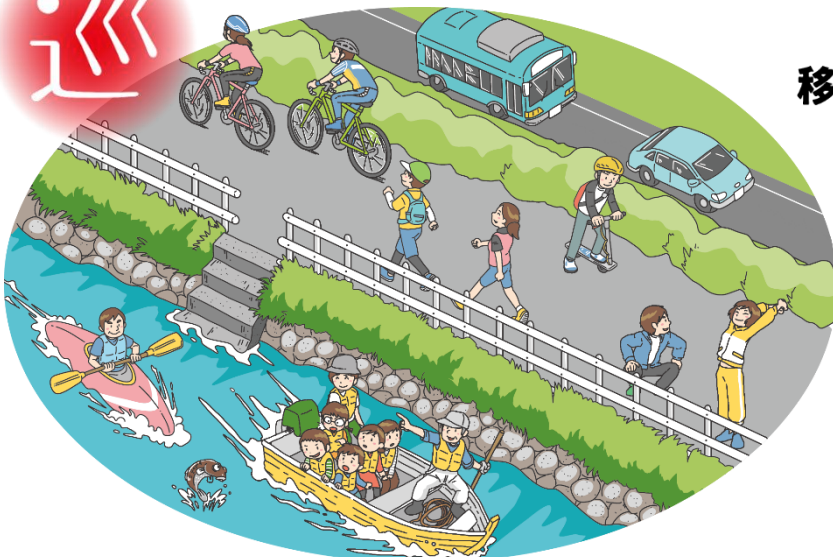


海辺の記憶を伝え、未来へつなぐ

海辺の景観と豊かな自然、歴史ある貞山運河、受け継がれてきた地域文化、震災の記憶の継承と鎮魂、災害文化の発信。海浜エリアの「これまで」と「これから」を広く伝え、そして未来につないでいく、そんな空間へ。

- VR等を活用しながら、環境や歴史、震災（防災）学習を行う人々

めぐる
巡



移動を楽しみながら魅力と出会う

田園地帯や海岸線でのトレイルやサイクリング、貞山運河での舟運、周遊バスなど、移動そのものを楽しむことができる、そんな空間へ。

- 貞山運河での舟運、自転車及び歩行者専用の道路でのサイクリングやキックボード、トレイル等を楽しむ人々

5. 本市の当面の取り組みの方向性

海浜エリアがより多くの人々に親しまれ、また集まった人々が交流し新たな賑わいの空間となるよう、前項で掲げた「6つの視点から描く将来像」に向けた取り組みをエリアで活躍する団体・事業者の方々とともに進めるにあたり、本市が当面推進する取り組みの方向性を示します。

(1) 集いの空間づくり

海浜エリアを訪れ、活動する目的は人それぞれです。初めて訪れる人にも、たびたび訪れる人にも、身近な場所となるよう以下のような来訪環境整備を進めます。

- エリアへの、またエリア内の移動・交通手段に関する検討・検証
- 施設やイベント、アクセス等に関する情報発信
- 来訪者に向けた案内表示の整備や地図情報等の提供
- 案内情報や移動手段等の提供における web やモバイル技術等の活用
- 休憩スペース、道路照明等の整備と管理
- 自転車走行空間の創出
- 公園及びその附帯スポーツ施設の整備
- 防潮、防風機能を有する防災林の育成
- 生物多様性の確保や地域固有の景観保全の推進
- 津波避難施設・避難誘導サインの整備と管理、震災の教訓を生かした避難方法の検討継続
- 大規模イベント開催時のエクスカーション・ツアー等の開催

(2) 親水空間としての貞山運河利活用

貞山運河は震災を経てなお、水鳥や水生生物の生息空間として、また訪れる人々を静かに癒す空間として、その歴史と共にゆったりと流れています。海浜エリアを南北に貫く貞山運河をこの地域のシンボルの一つとして捉え、その利活用推進に取り組みます。

- 貞山運河の利活用方法検討に資する、運河内の地形等実態調査
- 運河の水質改善に向けた対策検討・実施
- 海岸公園整備と連携した親水護岸等インフラ整備と親水レクリエーション（カヌー等）空間としての利活用検討
- 運河を管理する宮城県・国の関係機関及び運河流域の自治体との連携推進

(3) 様々な「つながり」を大きな「つながり」に

海浜エリアに関わる多くの人々の手によって、この地には多様なつながりが生まれ、また現在も生まれつつあります。様々な活動主体が将来像を共有し、それぞれの取り組みに反映できるよう連携と協働を推進します。

- エリアへの関心を高め、活性化の機運醸成を図るイベント・体験機会の提供
- 震災遺構仙台市立荒浜小学校やせんだい 3.11 メモリアル交流館等を活用した震災の記憶と記録の継承
- エリア活性化を企図した活動や事業への助成や公共利用ゾーン利活用推進
- エリア活性化を推進する連携体制の構築
- エリア活性化を牽引する人材の育成支援
- せんだい農業園芸センター等における農産品の PR 推進や関連イベント等の実施

6. 本市の計画・施策への反映

前項で掲げた取り組みを具体的な施策として計画的に推進するため、本市の実施計画や関係各局の計画、事業への反映や整合を通じて海浜エリア全体の価値を高め、「つながりから生まれる、集いの海辺」づくりに取り組みます。

- 本市実施計画において、本ビジョンに基づく事業の内容や短・中期的目標設定とともに、目標等の達成評価と点検、見直しを実施
- 現行基本計画の進捗確認における上記目標等の達成評価と点検、見直し
- 震災メモリアル、防災集団移転跡地利活用、海岸公園整備、誘客・観光等、庁内関連計画・施策への本ビジョンの反映

参考資料

1. 本市関連計画等における海浜エリアの位置づけ

ア. 仙台市基本計画

「仙台市基本計画 2021-2030」（2021年3月議決）では、仙台の地勢や地域の特色を踏まえた土地利用の方針を示す「土地利用方針図」において、仙台塩釜港周辺を「工業・流通・研究地域」、東部復興道路（かさ上げ道路）以東の大部分を「集落・里山・田園ゾーン」、一部を「交流再生区域」、さらに海岸線沿いを「自然環境保全ゾーン」として位置付けています。

また、仙台の強みや現状を踏まえて重点的に取り組む「チャレンジプロジェクト」の一つとして掲げる「杜と水の都プロジェクト」では、自然環境、海岸公園、レクリエーション施設等の海辺の資源の活用やネットワーク化を進め、東部沿岸地域一帯に賑わいを生み出すこととしています。

イ. 仙台市都市計画マスタープラン

都市計画法第18条の2の規定に基づく「市町村の都市計画に関する基本的な方針」として定める「仙台市都市計画マスタープラン～都市計画に関する基本的な方針 2021-2030」（2021年3月策定）では、沿岸部の一部を「交流再生区域」と位置づけ、地域の特性を活かした新たな魅力を創出し、地域の歴史や文化、東日本大震災の記憶と経験を国内外へ発信し、継承することとしています。

ウ. 仙台市東部沿岸部の集団移転跡地利活用方針

仙台の新たな魅力や価値を創出する土地利用を目指すため、将来にわたって跡地利活用に係る基本理念や土地利用方針を、地域の方々や事業者、市民、行政とで共有することを目的として策定された「仙台市東部沿岸部の集団移転跡地利活用方針」（2017年3月策定）では、各地区の特性を活かした多様な魅力を連携させることにより、東部沿岸部全体の回遊性の創出を目指していくとしています。

移転跡地利活用の基本理念

『つたえ、つなぎ、そしてつくる、新たな海辺の魅力と未来の仙台』

「つたえる」 そこにあったひとの営み、震災の記憶と復興の軌跡を伝えていく

「つなぐ」 地域が誇る自然、海辺の豊かな環境とひととを繋いでいく

「つくる」 かつての賑わい、そして新たな価値とひとの活力を創っていく

エ. みどりの基本計画

「仙台しみどりの基本計画」（2021年6月策定）では、田園・海岸について、農地の適正な保全や生物多様性の保全、地域固有の景観の維持等を実現するとともに、市民協働による海岸防災林の再生を進めることで防災・減災機能を高めながら、東部エリアのにぎわい、活性化を目指すこととしています。また、重点的な取り組みとして、仙台ならではのみどりである居久根や貞山運河等地域資源の利活用を進めることとしています。

オ. 海岸公園復興基本計画

「海岸公園復興基本計画」（2013年11月策定）では海岸公園の復興に向け策定された「海岸公園復興基本構想」（2013年3月策定）における基本指針「自然と人のつながりの再構築」「震災記憶の継承」「新たな賑わい・交流の創出」に基づき海岸防災林や貞山運河、海等の自然資源を活用し、自然と人とのつながりが感じられる空間づくり等を目指すこととしています。

カ. 仙台市災害危険区域条例

建築基準法第 39 条の規定に基づき、災害危険区域の指定及び災害危険区域内における建築物の建築の制限に関し必要な事項を定めた「仙台市災害危険区域条例」の改正（2011 年 12 月）により、仙台市沿岸部（若林区・宮城野区の沿岸部の一部）が災害危険区域に指定されました。

2. ヒアリング調査

(1) ヒアリング調査の概要

- ・ 調査期間：2022年9月～11月
- ・ 調査対象：海浜エリアで活動を展開する46団体
- ・ 調査項目：問1.現在の活動（事業）について
問2.今後の活動（事業）について
問3.海浜エリアについて
問4.海浜エリア全体の将来像について

・ 調査先一覧

・ 3.11 オモイデアーカイブ	・ 三本塚町内会
・ 株式会社 MITU	・ 新浜町内会
・ HOPE FOR project/荒浜灯籠流し実行委員会	・ せんだい 3.11 メモリアル交流館
・ J R フルーツパーク仙台あらはま	・ 仙台うみの杜水族館
・ 一般社団法人 ReRoots	・ 仙台新港マスターズ実行委員会
・ アクアイグニス仙台	・ せんだい農業園芸センター
・ 一般社団法人荒井タウンマネジメント (仙台海手ネットワーク事務局)	・ 種次町内会
	・ 貞山運河倶楽部
・ 荒浜のめぐみキッチン	・ 一般社団法人貞山運河ネット
・ 荒浜ワイワイガーデン	・ 東北黒沢建設工業株式会社
・ 井土町内会	・ なかの伝承の丘保存会
・ 海辺の図書館	・ 名取市サイクルスポーツセンター
・ 遠藤環境農園	・ 名取市商工観光課（貞山運河舟運事業）
・ 海岸公園センターハウス	・ 名取トレイルセンター
・ 海岸公園馬術場	・ 二木町内会
・ 海岸公園冒険広場	・ 平松農園
・ 神屋敷町内会	・ ファーム・SURF-SIDE 荒浜
・ ガモウパーク	・ 株式会社深沼アグリサービス
・ カントリーパーク新浜	・ 有限会社ミドリ企画
・ 木村造機	・ 三井アウトレットパーク仙台港
・ 旧藤塚町内会	・ 南蒲生町内会
・ キリンビール仙台工場	・ 元荒浜住民の方々
・ 今野不動産株式会社	・ ゆりあげ港朝市・メイプル館
・ 笹屋敷町内会	

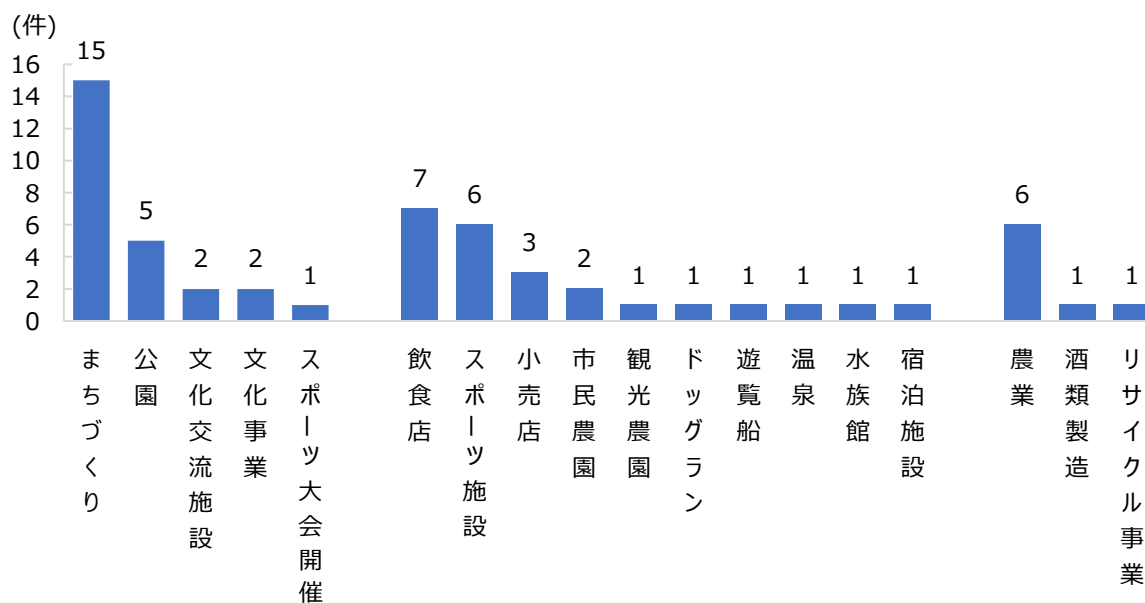
(五十音順、敬称略)

(2) ヒアリング調査の結果

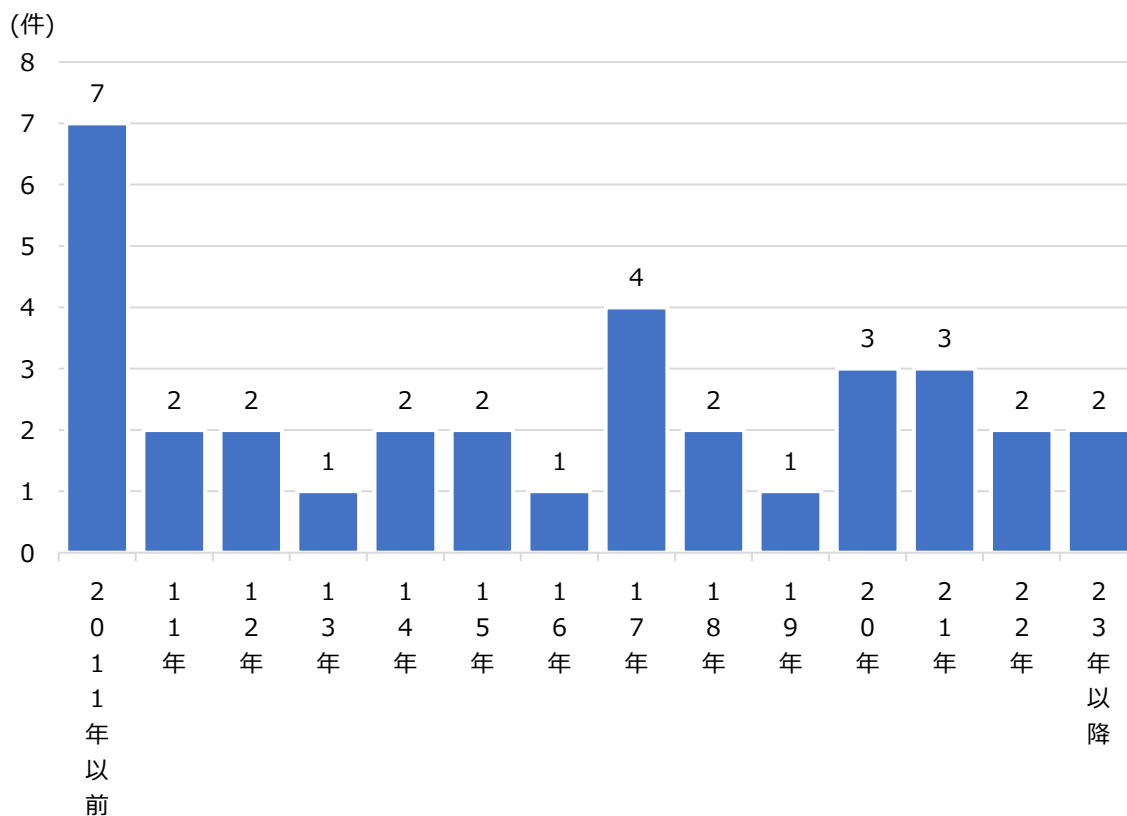
問1. 現在の活動（事業）について

問1-1：現在の活動（事業）の概要について教えてください。【自由回答】

※キーワード抽出結果をグラフ化

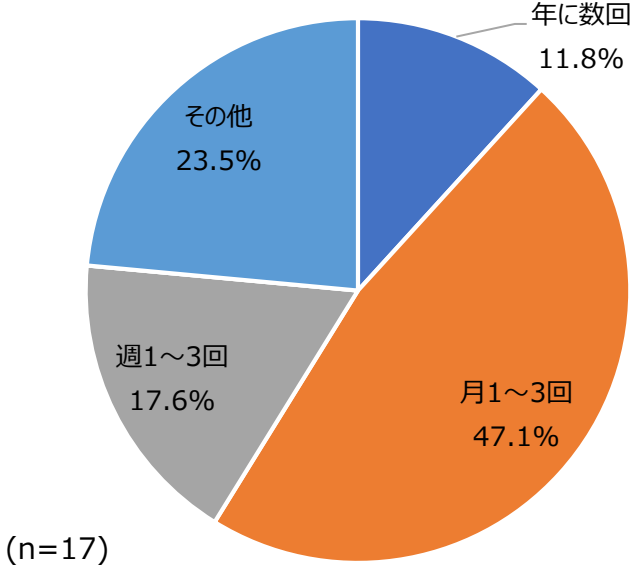


問1-2：現在：現在の活動（事業）を開始した時期（西暦）を教えてください。

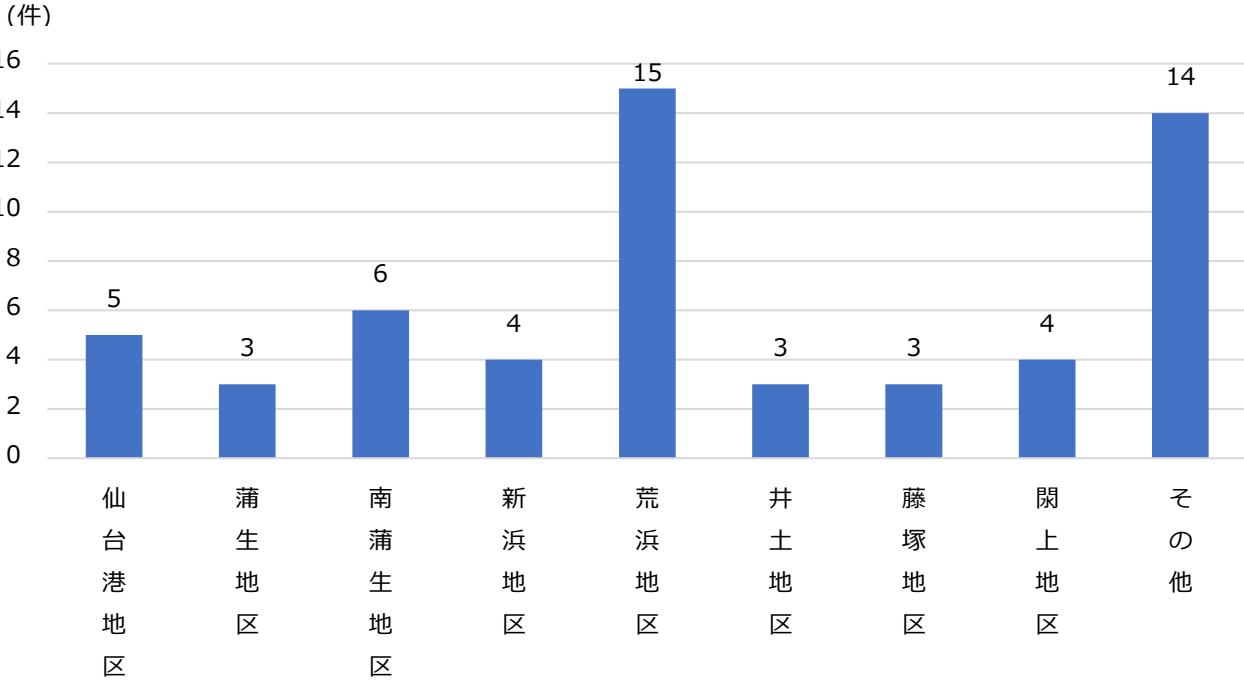


【地域団体・市民活動団体のみ対象設問】

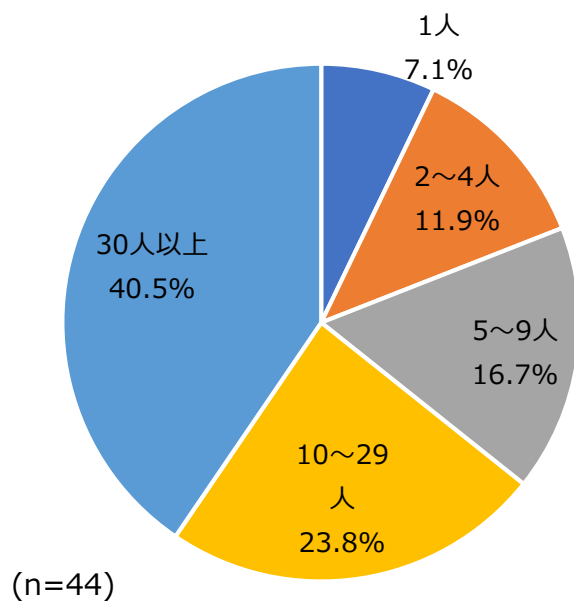
問 1 - 3 : 活動の頻度について、最もあてはまる番号を丸で囲んでください。



問 1 - 4 : 活動（事業）を行っているエリアについて、あてはまる番号を全て丸で囲んでください。【複数回答】

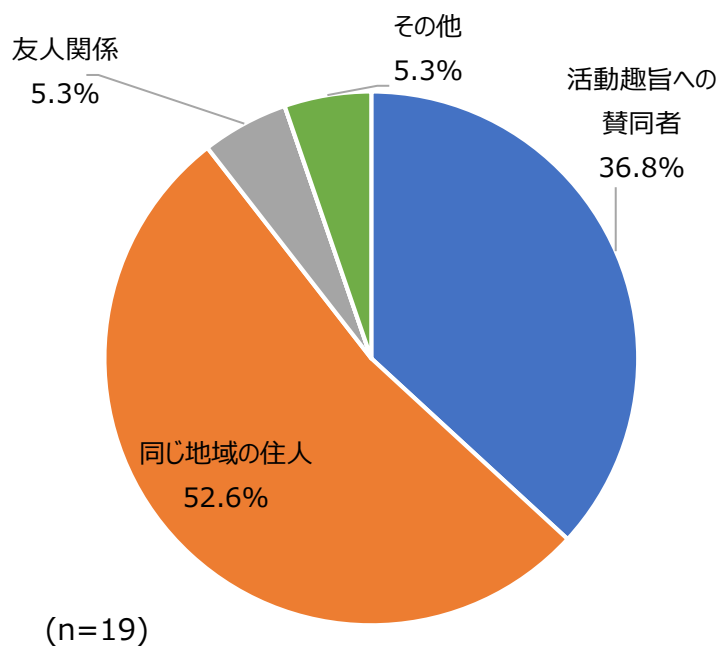


問1-5：メンバー数（従業員数）について、あてはまる番号を丸で囲んでください。

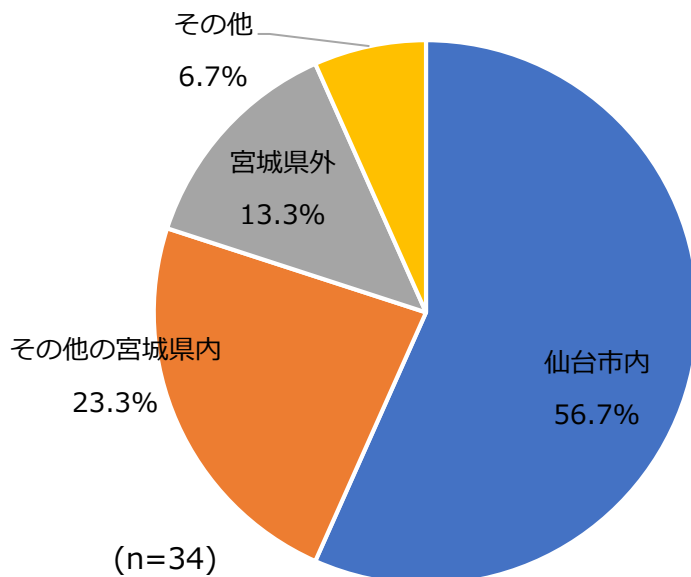


【地域団体・市民活動団体のみ対象設問】

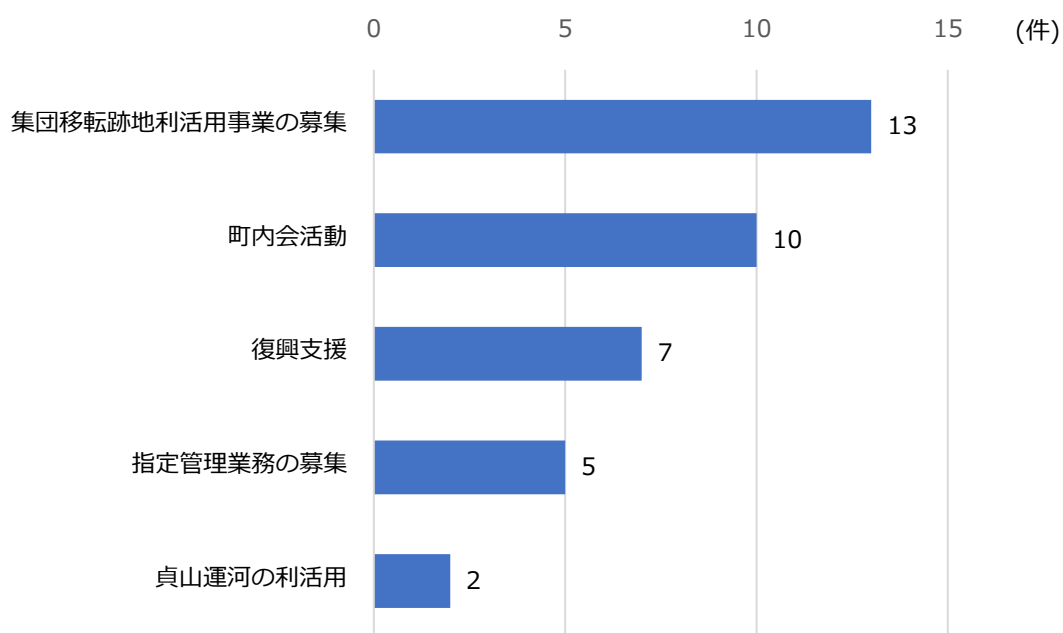
問1-6：現在の活動メンバーの属性について、最もあてはまる番号を丸で囲んでください。



問1-7：活動で行っているイベント等の来場者（事業者の皆様の場合は、事業におけるお客様）は、主にどのエリアから来られますか。最もあてはまる番号を丸で囲んでください。

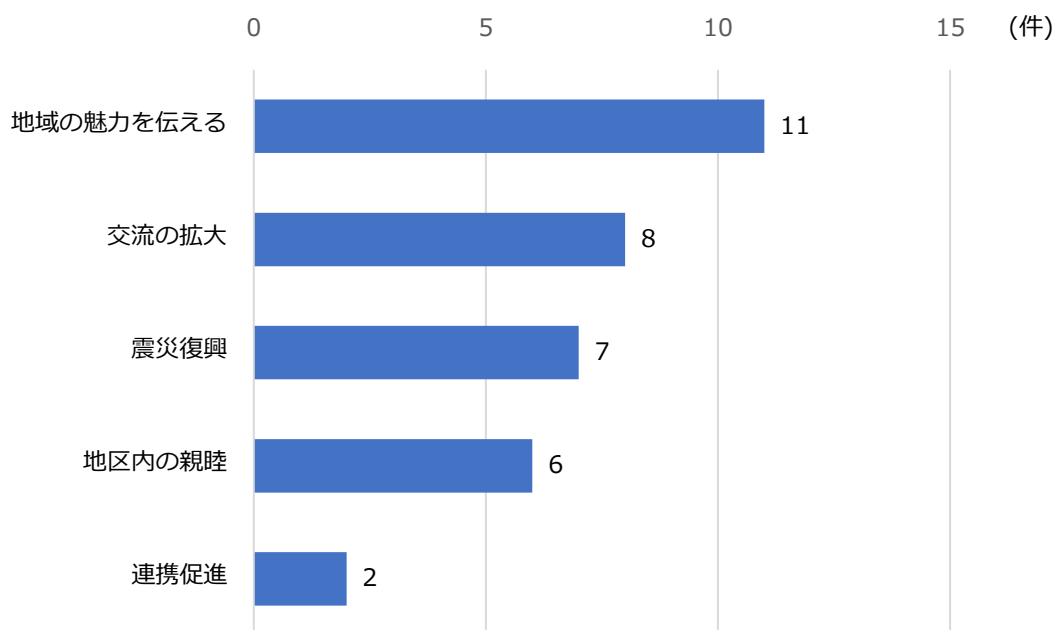


問1-8：問1-1の活動（事業）を行うことになった「きっかけ」（内容・時期・場所等）を教えてください。【自由回答】※キーワード抽出結果上位5つをグラフ化



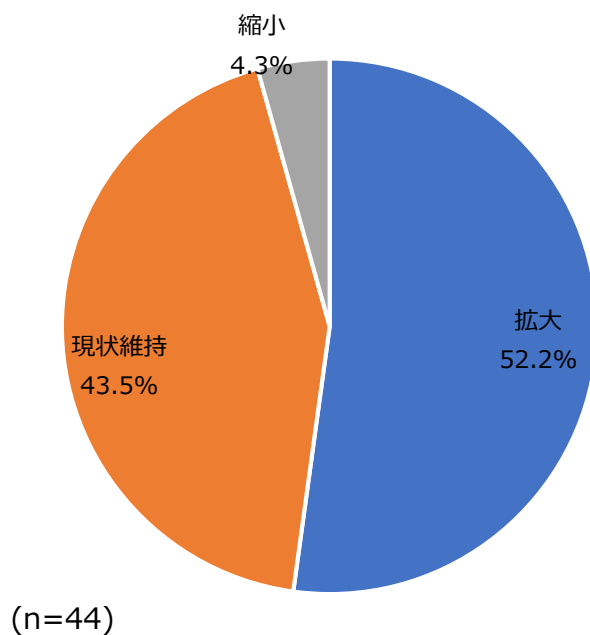
問1-9：問1-1の活動(事業)を行う上で大切にしていること(理念)を教えてください。

【自由回答】※キーワード抽出結果上位5つをグラフ化



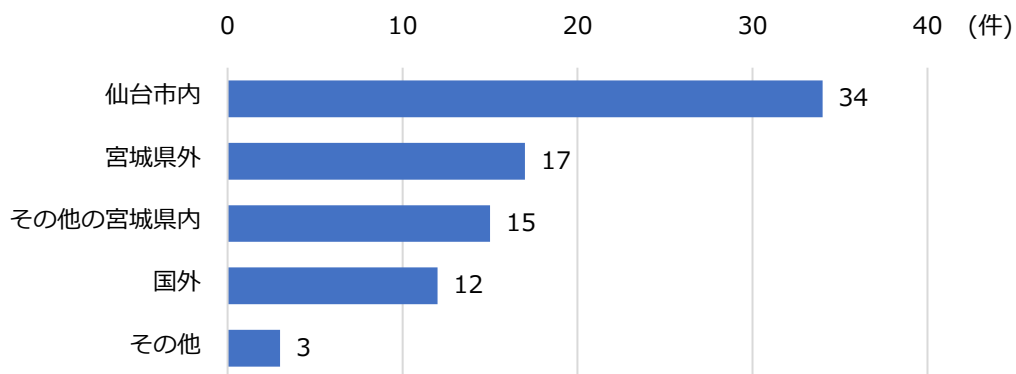
問2. 今後の活動(事業)について

問2-1：今後の活動(事業)規模について、どのようにしたいとお考えですか。あてはまる番号を1つ丸で囲んでください。また、その理由も教えてください。

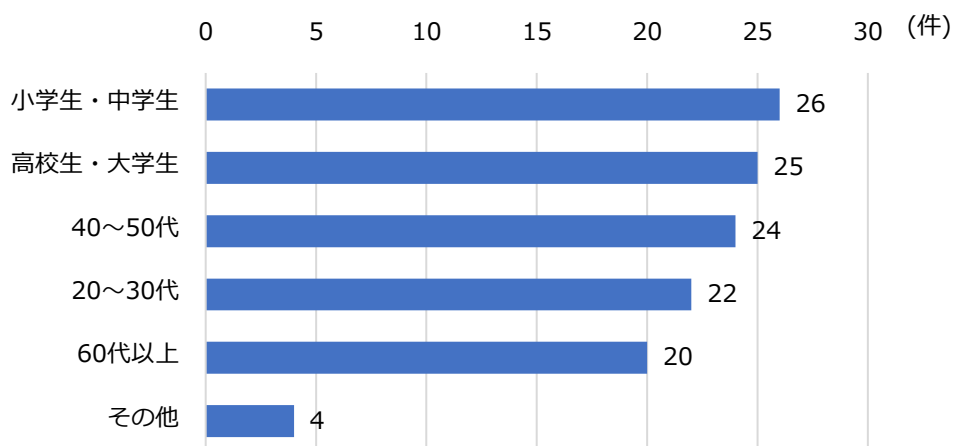


問2-2：今後の活動で行うイベント等に来てほしい方（事業者の皆様の場合は、今後の事業のターゲットとしたいお客様）について、あてはまる番号を全て丸で囲んでください。【複数回答】

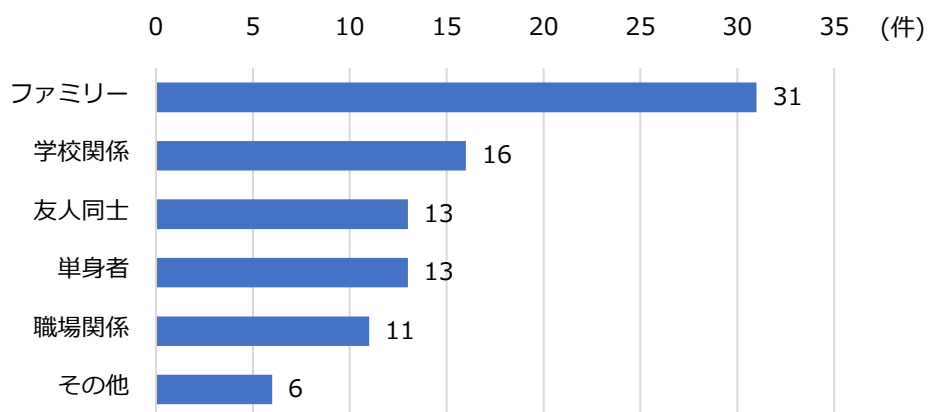
【住所】



【年代】

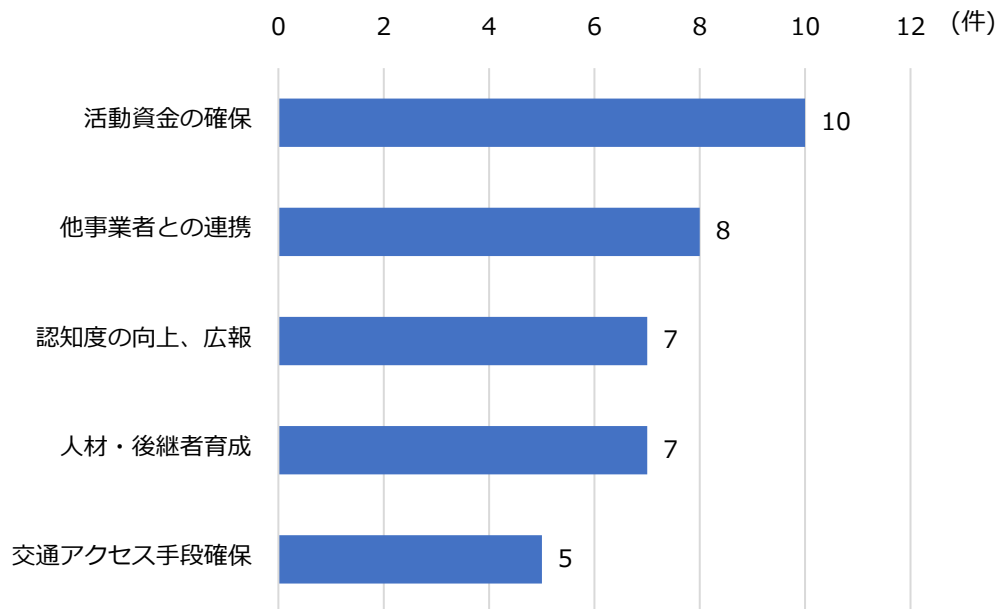


【属性】



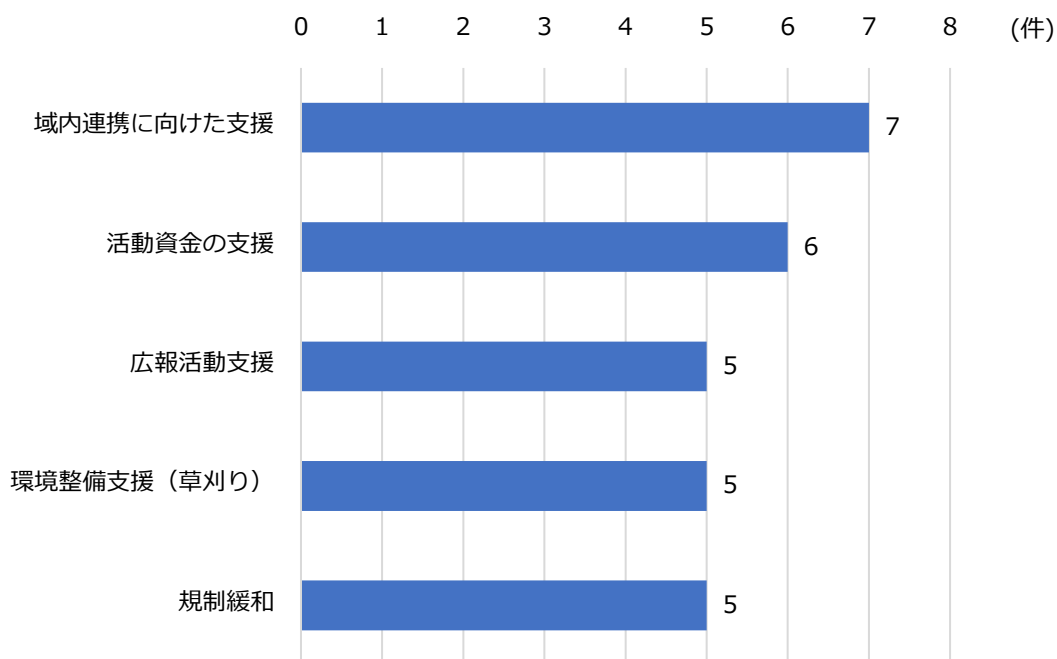
問2-3：今後の活動（事業）を行っていく上での課題や、必要と考えるモノ・コトがあれば教えてください。また、その理由も教えてください。【自由回答】

※キーワード抽出結果上位5つをグラフ化

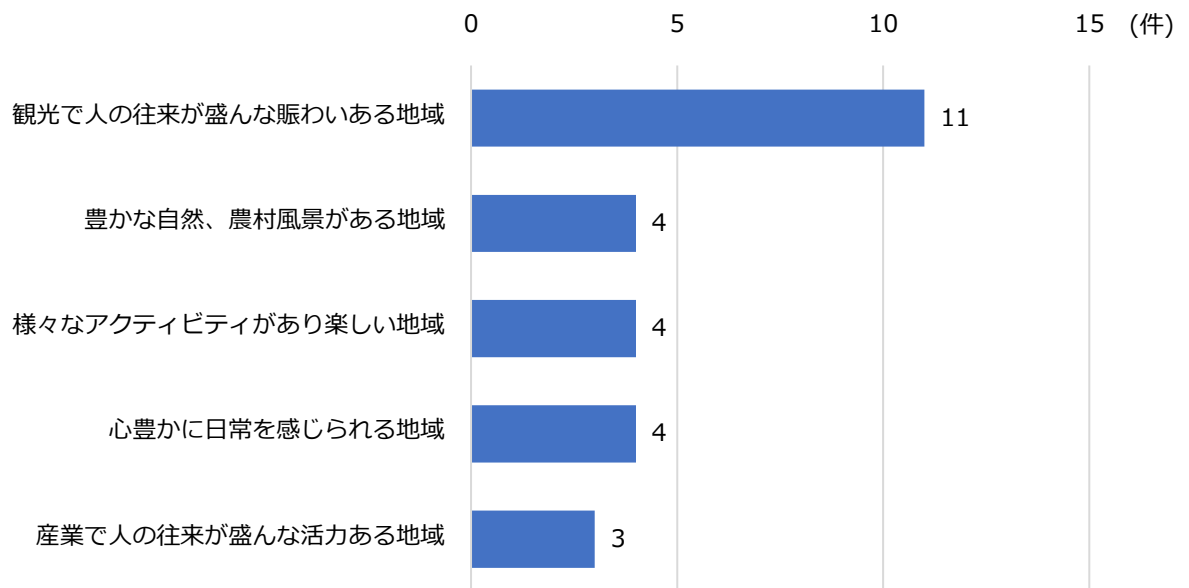


問2-4：今後の活動（事業）を行っていく上で、行政（国・県・市）に進めてほしい施策があれば教えてください。【自由回答】

※キーワード抽出結果上位5つをグラフ化



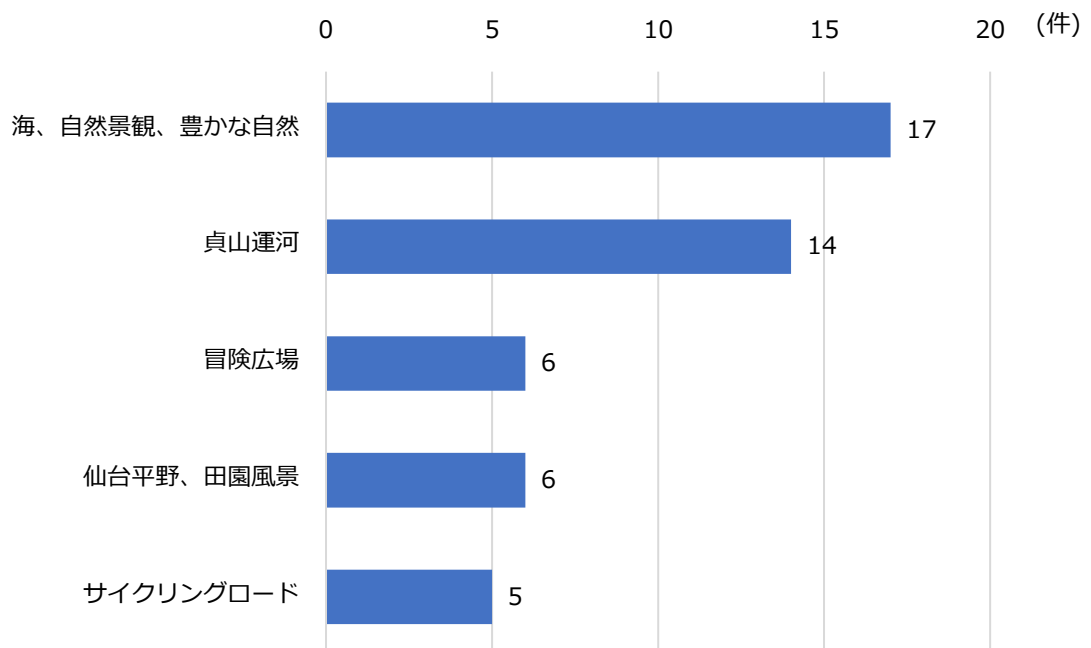
問2-5：今後、活動（事業）エリア周辺はどのように変わってほしいとお考えですか。【自由回答】 ※キーワード抽出結果上位5つをグラフ化



問3. 海浜エリアについて

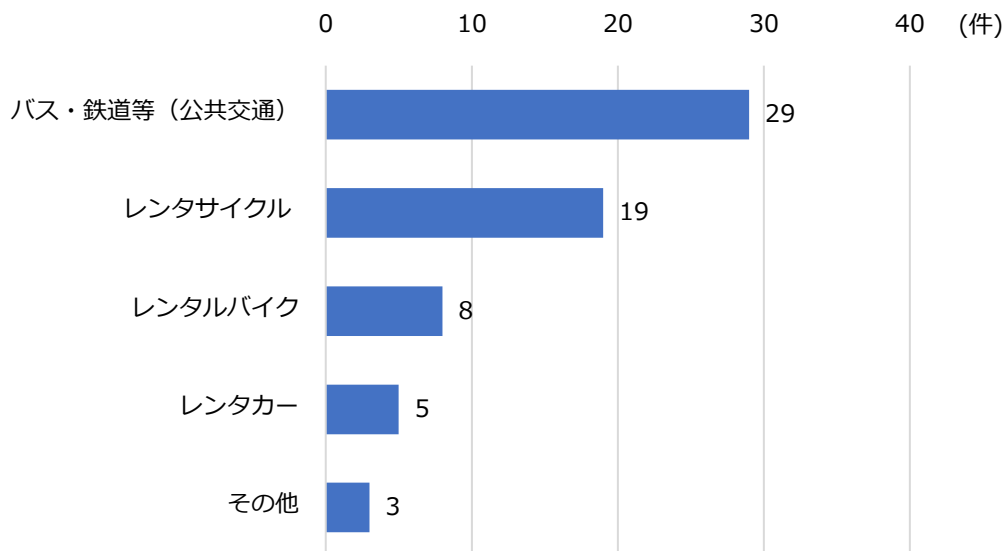
問3-1：海浜エリアで魅力的だと感じる場所や事柄について、教えてください。

【自由回答】 ※キーワード抽出結果上位5つをグラフ化

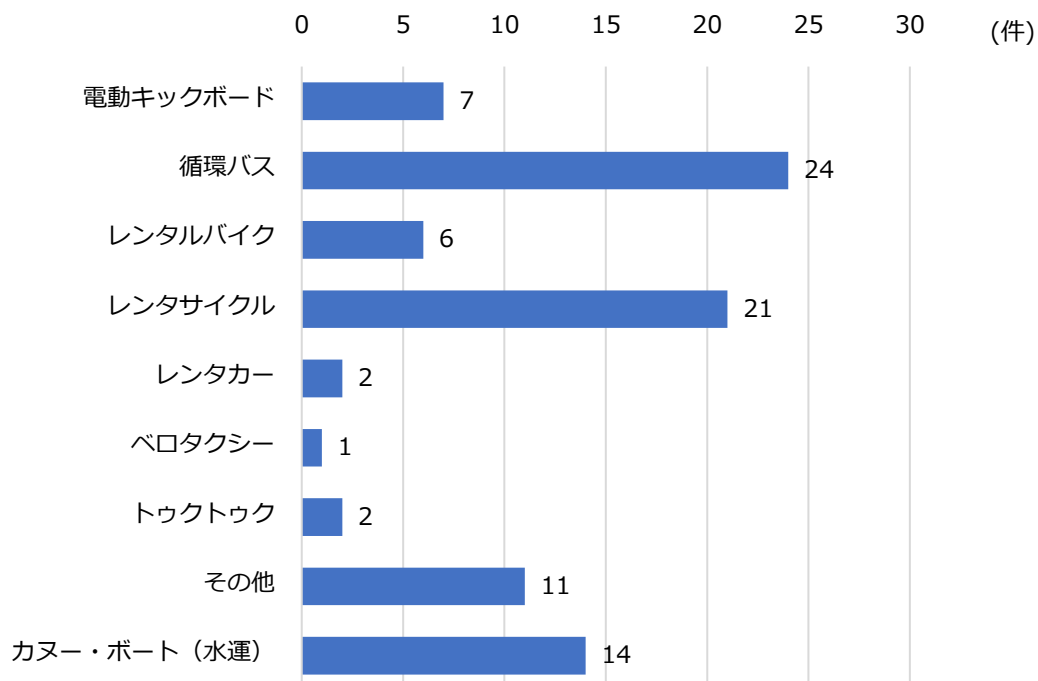


問3-2：現在、車で往来する方が多い海浜エリアで、今後、必要と考える移動手段について、あてはまる番号を全て丸で囲んでください。【複数回答】

【海浜エリア外からエリア内への移動】

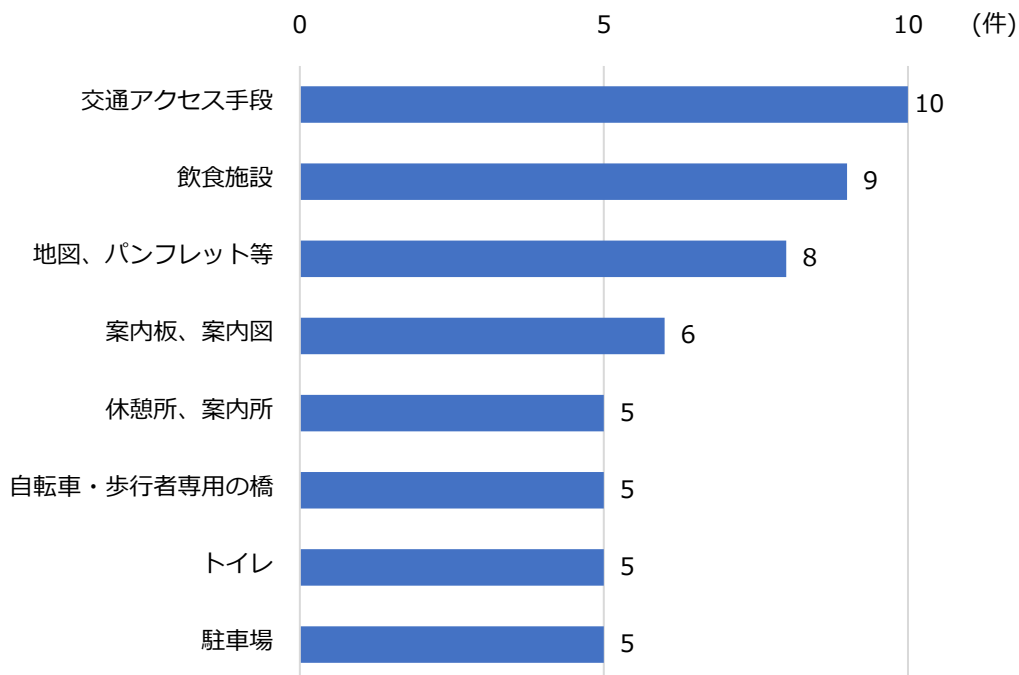


【海浜エリア内での移動】

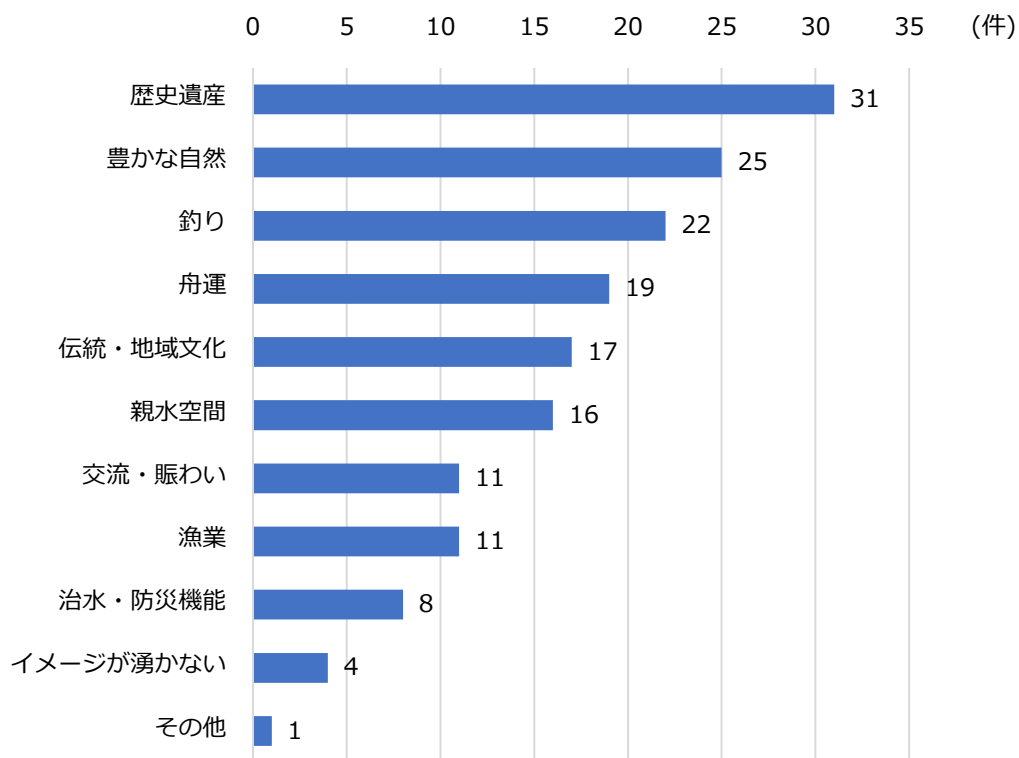


問3-3：海浜エリアの来訪者のために、必要と考えるモノ・コトがあれば教えてください。

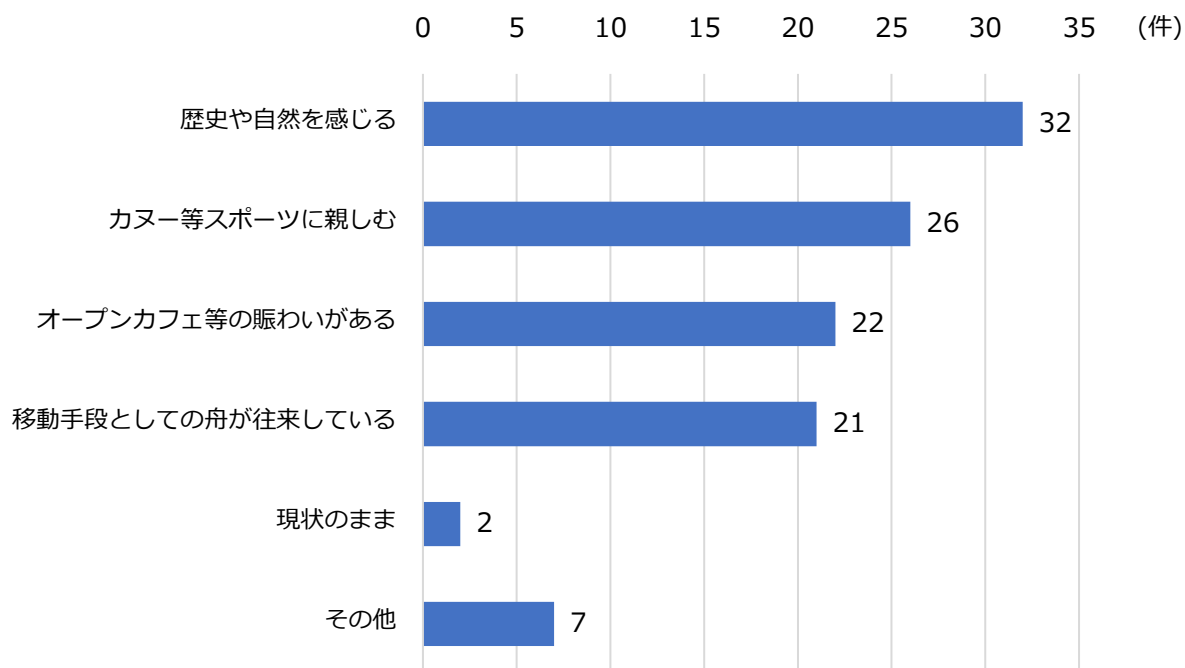
【自由回答】※キーワード抽出結果上位5つをグラフ化



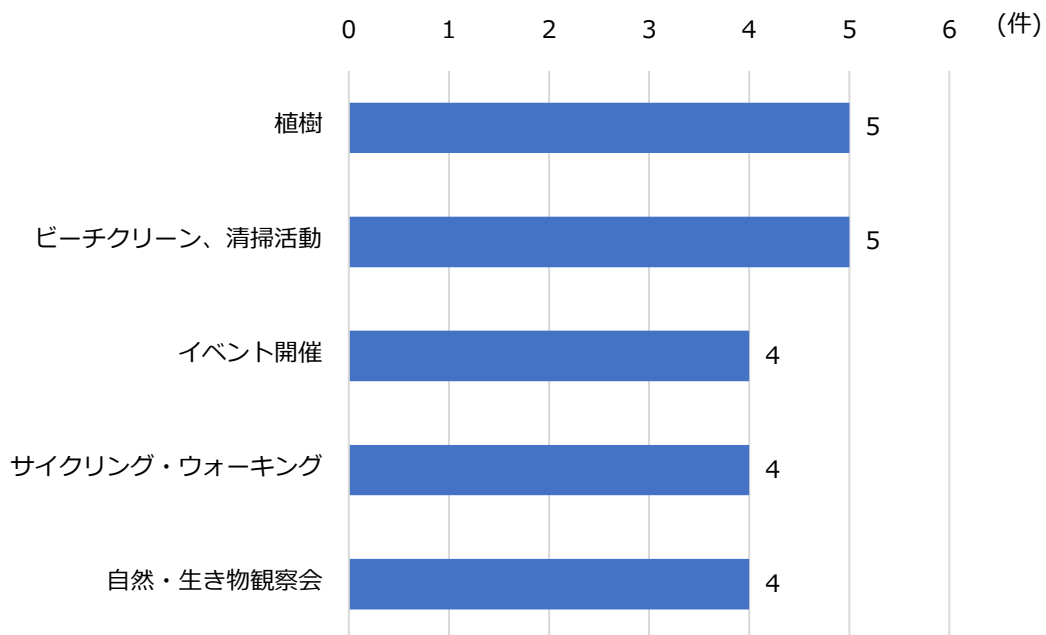
問3-4：海浜エリアを南北に流れる貞山運河に対するイメージとして、あてはまる番号を全て丸で囲んでください。【複数回答】



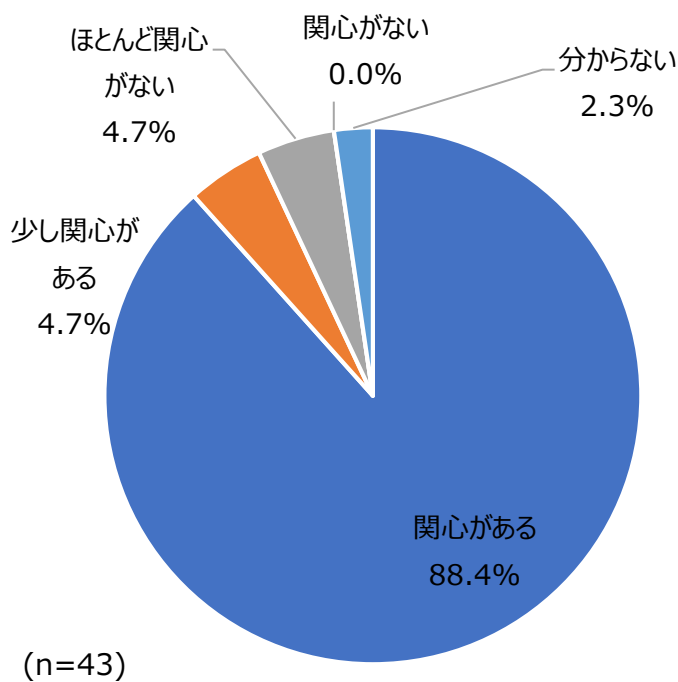
問3-5：これからの貞山運河はどうあってほしいと思いますか。あてはまる番号を全て丸で囲んでください。【複数回答】



問3-6：現在、貞山運河や海岸を活動の場として取り組んでいることがあれば教えてください。【自由回答】 ※キーワード抽出結果上位5つをグラフ化

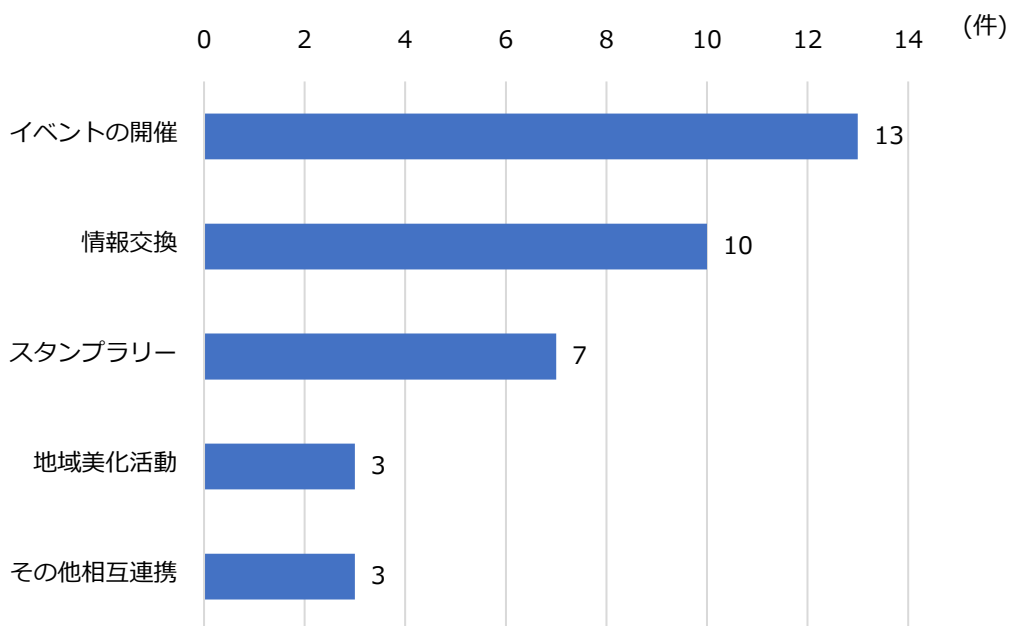


問3-7：海浜エリアで活動されている他団体・他事業者の皆様との相互連携に関心がありますか。最もあてはまる番号を丸で囲んでください。



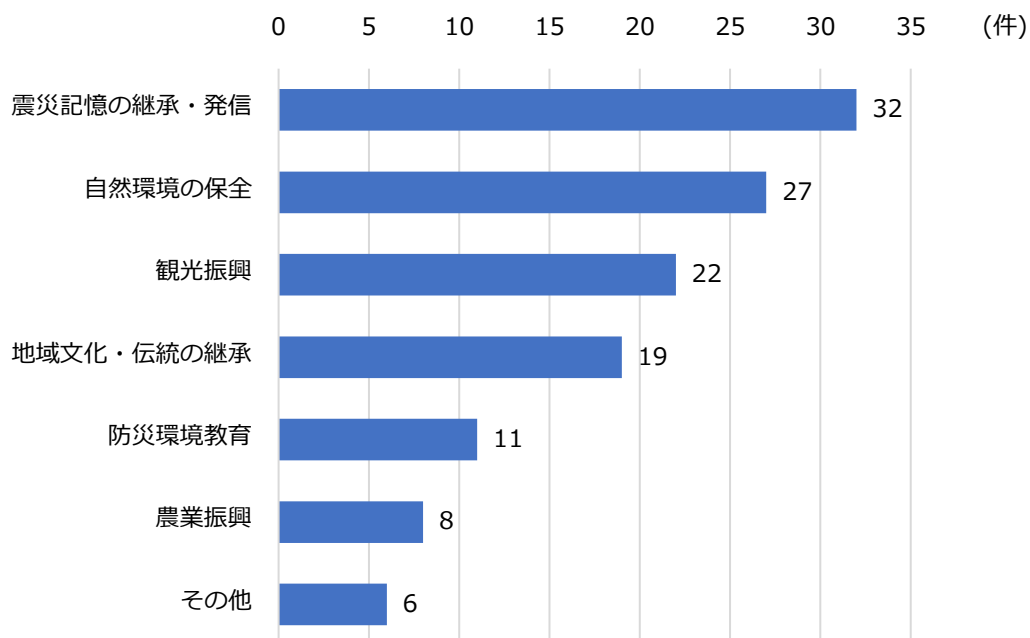
問3-8：現在、他団体・他事業者の皆様と相互連携中の取り組みや、今後、相互連携により取り組みたいことがあれば教えてください。【自由回答】

※キーワード抽出結果上位5つをグラフ化

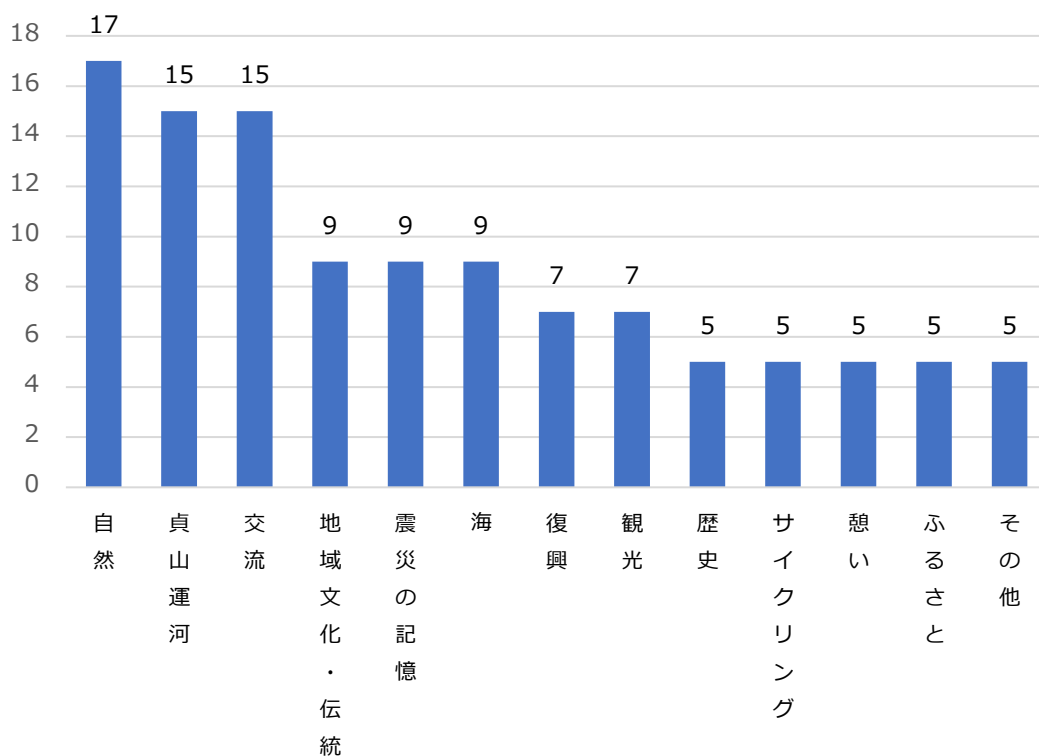


問4. 海浜エリア全体の将来像について

問4-1：海浜エリア全体の活性化を進める上で重視したい視点について、3つまで丸で囲んでください。【複数回答】



問4-2：海浜エリア全体の将来像として当てはまるキーワードを、3つまで丸で囲んでください。【複数回答】



問4-3：海浜エリア全体の将来像としてイメージされる具体の事例があれば、教えてください。【自由回答】

- ・ 横浜、山下公園のような憩い、食、ショッピングの要素が集約した地域
- ・ 小樽や横浜の赤レンガ倉庫のような地域
- ・ アメリカ西海岸
- ・ 倉敷のような水路にめぐまれた城下町のような地域
- ・ ポートランドのような多様な人たちにとって居心地の良い地域
- ・ 逗子市のような安心して過ごせる海辺の環境が整備されている地域
- ・ ドイツ・エムシャーパーク公園
- ・ 軽井沢のような自然の中に人が集うような地域
- ・ 閑上や七ヶ浜のような活気溢れる地域
- ・ 長野県飯田市のような豊かな自然を気軽に堪能できる地域

問4-4：その他、海浜エリアの活性化に必要だと考えるモノ・コトがあれば教えてください。【自由回答】 ※キーワード抽出結果上位4つをグラフ化

